

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月31日現在

機関番号：24403

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23890184

研究課題名（和文）慢性心不全患者のヘルスリテラシーに基づく症状マネージメント支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a Support Program Based on the Health Literacy of Patients with Chronic Heart Failure.

研究代表者

角野 雅春（KADONO MASAHARU）

大阪府立大学・看護学部・助教

研究者番号：50611456

研究成果の概要（和文）：ヘルスリテラシーの観点から様々な病状の経過にある患者の自己管理に関わる認識状況を評価することで、効果的な慢性心不全患者支援の糸口となることが示唆された。また、慢性心不全患者支援プログラムの開発の構築においては、病状経過に関して、慢性心不全患者は医療者とのコミュニケーションを要望していることも明らかとなり、これらのコミュニケーションの要望に対する継続的で積極的な機会の提供の重要性も示唆された。

研究成果の概要（英文）：From the perspective of health literacy, by evaluating the situation of cognition of self-management in patients with various progressions of symptoms, this provides a first step in the effective support of patients with heart failure. In the structure of development of chronic heart failure patient support programs, with regard to the progression of disease, it is also clear that there is a demand for communication between the patient with chronic heart failure and medical staff and with regard to this demand, the importance of providing continuing and active opportunities is also suggested.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1200000	360000	1560000
2012年度	1100000	330000	1430000
年度			
年度			
年度			
総計	2300000	690000	2990000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：臨床看護学

キーワード：、慢性心不全、ヘルスリテラシー

1. 研究開始当初の背景

近年、心不全による死亡者数は国内外

で、持続的に増加しており、日本における心不全患者数は、厚生労働省の調査では2006年で推計約25万人とされる。また、心不全患者の平均年齢は68.1才であり、65歳以上が全体の66.1%を占め、今後も高齢化とともに増加が推定される。心不全患者は、治療により病状が改善しても増悪をくりかえしやすく、再入院する患者が多く、その増加は国民医療費の増大に繋がり、医療上の重要な課題となっている。

慢性心不全患者は、日常生活において、心臓病や生活習慣病や症状の出現などに関する問題を抱えながら、患者自身が自己管理する方法を学び、継続した症状マネジメントが求められる。心不全患者のセルフマネジメントは、症状や徴候に対する反応としての認知的な意思決定のプロセスであり、心不全患者は、心不全に伴う生活管理の経験に基づく熟練した能力が必要（簗持, 2003）と報告されている。そのため、心不全患者において症状管理に結びつく疾患や療養上の知識の提供が必要である（大津, 2008）が、そのみでは不十分であり、症状を監視、評価し、対策を選択、実行、評価する一連のプロセスにはどのようなスキルが必要であるのか明らかにすることは重要であるが、十分に検討されていない。

慢性心不全患者の再入院防止には、症状マネジメントが重要である。症状マネジメントは症状の監視と対策の選択、実行、評価の一連の意思決定プロセスであり、これまでの知識提供に焦点化された支援には限界があり課題となっている。近年、ヘルスリテラシーは、健康の維持増進に必要な情報を入手し、理解し、利

用する意欲や能力を規定する認知および生活上のスキル（WHO, 1998）とされ、患者自身の日常生活における意思決定のプロセスとしての症状マネジメントへの看護支援に活用できる重要な概念として期待されている。ヘルスリテラシーがもたらす慢性疾患患者への行動変容への有効性や社会・ヘルスケア環境で機能するためにヘルスリテラシーの複雑な能力が用いられていることが報告されている（Davis, T. C et al, 2002; Fisher, E, 1999; Ishikawa et al, 2008; 村田ら, 2006; NutBeam, 2000）。

このようにヘルスリテラシーは、慢性心不全患者の症状マネジメントにおける症状の変化や症状のとらえ方などの観点で重要であると考えられ、ヘルスリテラシーに注目した支援は期待される。したがって慢性心不全患者の日常生活における症状マネジメントにはヘルスリテラシーの活用が必要不可欠であり、その構成要素を明らかにすることは慢性心不全患者の症状マネジメントの認知やスキルを維持、向上させるための支援の基盤となり、慢性心不全患者の症状マネジメントを促進し、再入院を防止する上で不可欠であり、意義が大きいと考える。

## 2. 研究の目的

本研究は、慢性心不全患者のヘルスリテラシーの構成要素について明らかにし、症状マネジメントを中心とした心不全患者支援プログラムを開発することを目的とした。

## 3. 研究の方法

慢性心不全と診断され循環器内科外来に通院中の患者を対象に因子探索型

の研究方法を用い、インタビューを行い分析方法は面接で得られたデータを基に、質的内容分析を行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) 2011年度成果

2011年度は、半構成的面接を実施するにあたり、先行研究・文献検討の結果から、インタビューガイドを作成した。インタビューガイドは、先行研究および研究文献から、疾患・健康に関する知識及び情報を得る過程での経験、疾患・健康に関する知識及び情報の活用の経験、疾患・健康に関する療養生活上にいける意味などに関する質問内容で以下の5項目を作成した。また、基本属性質問項目に、年齢、性別、現病歴、既往歴、家族背景、職業の有無の6項目を作成した。次に、大阪府立大学倫理委員会承認の後、西日本にある300床以上の入院ベッドを有し、循環器内科外来、および入院病棟を有する総合病院の看護部門総括者に研究協力の依頼をした。研究協力施設の倫理委員会の承認を得た後、了解が得られた施設の看護部長、病棟管理担当者に研究の概要、研究協力依頼について説明し許可を得た。研究対象者は循環器内科外来、および入院病棟を有する総合病院に慢性心不全と診断され入院加療の後、退院するが再度、慢性心不全で入院した患者、および通院中の患者を対象にインタビューガイドを用いた半構成的面接を実施した。

##### (2) 2012年度成果

2012年度は本調査を実施し、データの集計・分析を行った。データの集計は、本研究におけるデータの質的飽和状態満たせばデータ収集を終了とした。研究協力者の概要は、研究協力者は男性10名、女性4名の14名だった。年齢は40歳代が1名、50歳代が2名、60歳代が5名、70歳代が4名、80歳代が2

名であった。慢性心不全と診断を受け入院経験した回数平均は、1.4回であった。

データ分析方法は、慢性心不全患者のヘルスリテラシーの構成要素は質的内容分析法を用いて分析した。内容分析は慢性看護の研究者および看護実践者の複数名で実施し、分析の信憑性、正確性の確保を行った。慢性心不全患者のヘルスリテラシーの構成要素として、心不全に関する一般的知識の比較判断によって行われる情報の理解や心負荷に至る状況の抽出、状況の把握によって行われる情報の整理などが明らかとなった。また、慢性心不全患者の症状マネジメントを中心とした心不全患者支援プログラムを開発に示唆を与えるのもであった。調査は、心不全の自己管理に関わる情報の内容、入手、理解、活用、情報源に関する半構成的面接を実施し、その結果から逐語録を作成し、情報の読解・数的理解、情報の選択と整理、治療や療養に関連する情報の判断・意志決定、コミュニケーションの観点で内容分析を行った。

慢性心不全患者のヘルスリテラシーの構成要素の一部として、慢性心不全患者の情報の選択と整理として、心負荷になる状況に対し一般的知識から自分に当てはまる知識の選択や生活の中で自分にとっての心負荷となる状況の抽出とその程度の把握を行っていることが分かった。慢性心不全患者のヘルスリテラシーは、その心不全の段階に応じた自己管理に関わる情報を自身の生活に適応させるべく認知的及び社会的な能力として活用していることが明らかとなった。

ヘルスリテラシーの観点から様々な病状の経過にある患者の自己管理に関わる認識状況を評価することで、効果的な慢性心不全患者支援の糸口となることが示唆された。また、慢性心不全患者支援プログラムの開発の構築においては、病状経過に関して、慢性心不全

研究者番号：

患者は医療者とのコミュニケーションを要望していることも明らかとなり、これらのコミュニケーションの要望に対する継続的で積極的な機会の提供の重要性も示唆された。

したがって、慢性心不全患者の日常生活における症状マネジメントにはヘルスリテラシーの活用が必要不可欠である。しかしながら、このような問題を解決するためには、慢性心不全患者のヘルスリテラシーに基づく症状マネジメントを看護実践前後で支援の効果を評価する必要があるがそれには至っていない。

慢性心不全患者に対して、継続的な教育の実践において慢性心不全患者のヘルスリテラシーに基づいた症状マネジメント評価尺度を開発について研究をすすめていく予定であり、慢性心不全患者の症状マネジメントに関わる情報の入手やその活用等の認知及びスキルの評価が可能になると考える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

角野雅春：慢性心不全の症状管理に向けたヘルスリテラシーの様相～初回入院患者と急性増悪の経験のある患者の比較から～、第 7 回日本慢性看護学術集会、20130629、兵庫医療大学

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

角野雅春 (KADONO MASAHARU)  
大阪府立大学・看護学部・助教  
研究者番号：50611456

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )